新生児科

統括部長　岩松利至

1　部門目標

収容不能率を入院依頼の 20%未満に抑える。

2　業務体制・スタッフ

スタッフは、岩松利至、大塚春美、今井郁子、鈴木康浩、大橋美香、石黒利佳および近藤丈太の 7 名に加えて、2021 年 4 月より櫻井基一郎、櫻井裕子が昭和大学江東豊洲病院から新たに加わり、計 9 名の体制となりました。臨床心理士は藤嶋加奈および本田淳子の 2 名体制でした。(いずれも非常勤)。後期研修医としては、東京女子医大本院より髙橋将也（2021 年 4 月～9 月)、長谷川史織（2021 年 7 月～12 月)、および藤倉思草（2021 年 7 月～2022 年 3 月）の 3 名、院内小児科より多湖孟祐（2021 年 1 月～6 月）および中川良太（2021 年 7 月～12 月)、の 2 名が研修を行いました。院内初期研修医としては、吉野彰人、川村祥太、武井友理、藤森あゆ未および中曽根広拓の 5 名が短期の研修を行いました。

3　業務実績

1）入院数および成熟児重症例の増加

2021 年 1 月～12 月の入院数は 333 名で、コロナ感染症流行の影響を受けることなく、前年よりも 47 名増加いたしました。うち院内出生は 238 名で全体の 71.5%であり、ほぼ例年通りでした。出生体重別では、1000g 未満が 13 名で前年の 5 名から例年通りまで増加し、1000～1499g は 21 名でほぼ例年並みでした。2021 年の特徴は成熟児の重症例が多かったことで、死亡例も 1500～2499g で 2 名、2500g 以上で 3 名の計 5 名であり死亡率は 1.5%となりました。反対に 1500g 未満の児の死亡例はありませんでした。気管内挿管での人工呼吸管理症例は 58 名で前年からほぼ倍増しており、重症例が多かったことを反映しているものと考えられます。持続陽圧呼吸管理症例も 139 名と 3 年連続で 100 名を上回りました。また本年より小児外科に光永哲也医師が着任したのに伴い、超低出生体重児の胎便関連性イレウスの症例に対して、初めて院内で小児外科手術が行われました。また 2021 年も、東京女子医大東医療センター新生児科長谷川久弥教授の往診による気管支鏡検査が行われ、新生児期発症の気道病変の管理向上に努めました。

2）入院依頼（母体搬送依頼を含む）の 82%に対応

院外からの入院依頼（産科への母体搬送依頼を含む）は 275 件であり、前年よりも 43 件増加しておりました。対応できたのは、新生児入院の 95 件（直接入院 94 件、往診での新生児救急搬

送入院 1 件）と、母体搬送等での対応 94 件の、合わせて 189 件であり例年通りの症例数であったため、依頼の 69%に留まりました。

2021年 入院状況

作成： 2021/1/31

1）総入院数　333　名

*院内　238　名　71.5%

*院内にて出生後、NICUもしくはGCUへ入院(再入院 2名含)

2020年の総入院数　（2021年前年比）

2020年	総入院数	286　名	(116.4%)
（前年比）	院内	192　名	(124.0%)

出生体重	入院数	死亡数
～999g	13	0
1000～1499g	21	0
1500～2499g	159	2
2500g～	140	3
合計	**333**	**5**

当院受診（非紹介）	14	*初診時より当院にてフォロー
母体搬送	82	**2021年**
産科外来紹介	142	
未受診	0	
合計	**238**	

在胎	入院数	死亡数
22～24週	2	0
25～27週	10	0
28～32週	42	0
33～36週	117	2
37週～	162	3
不明（未受診）	0	0
合計	**333**	**5**

	使用人数	日数	平均/日数	平均/入院
人工呼吸器管理（IMV）	58	425	7.3日*①	17.4%
CPAP,DPAP	139	1514	10.9日*①	41.7%
サーファクタント	41			12.3%

*①（日数/使用人数）　**2021年**

*②（使用人数/総入院数）

2）入院依頼（院外より）　275 件

*院外での出生児、出生後に当院NICUもしくはGCUへ入院

2020年（前年比）	入院依頼	232　件	118.5%

①新生児科入院　95　件

34.5%（入院/入院依頼）

2020年	入院	96　名	(99.0%)
（前年比）	入院/入院依頼	41%	＋　−6.8%

救急車	94	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って救急車にて当NICUに入院した症例
自家用車	0	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って自家用車にて当NICUに入院した症例
新生児救急搬送	1	*出産施設ですでに出生している重篤な児を当院新生児医師と看護師が救急車で迎えに行きNICUに搬送した症例
分娩立会＋搬送	0	*新生児医師と看護師が救急車で出産施設に出向き、分娩に立ち会ったうえでNICUに搬送した症例
三角搬送	0	*医師が救急車等で依頼元医療施設へ行き、新生児と同乗してほかの医療施設へ搬送した症例
合計	**95**	

②他科収容・相談など　94　件

34.2%（他科収容・相談等/入院依頼）

2020年	他科収容・相談など	94　名	(100.0%)
（前年比）	他科収容・相談等/入院依頼	46.1%	−11.9%

産科へ母体搬送	73
相談のみ	14
外来予約	4
入院予約	2
その他/小児科外来対応	1

③受入不可　42　件

9.5%　（当院満床/入院依頼）

5.8%　（その他/入院依頼）

2020年	受入不可	42　名	(100.0%)
（前年比）	当院満床/入院依頼	11.2%	
	その他/入院依頼	6.8%	

他院へ（当院満床）	**26**
（産科）	3
（新生児科）	23
（両科共に満床）	0
その他	16
産科緊急対応中	2
N重症児対応中	7
緊急近医へ誘導	4
レスピレーター余裕なし	1
母体発熱	1
コロナ感染妊婦入院中	1

千葉市立　海浜病院　新生児科

４　１年間の総括

- 引き続き新型コロナウイルス感染症の流行が見られましたが、他の診療科では入院数の減少が認められる中で新生児科の入院数は更に前年を大きく上回っており影響を受けることはありませんでした。しかし、その流行の増悪に伴って、当科でも面会の制限を余儀なくされました。
- 本年度は昭和大学江東豊洲病院からの新たなスタッフが 2 名加わり、また例年通り当院小児科および東京女子医科大学本院小児科から、複数名の後期研修医の安定した派遣を受けることができ、診療体制が充実しました。
- しかし院外からの依頼数も例年よりも増加したため対応症例が 69%に留まり、収容不能率を 20%未満に抑えることができませんでした。
- 当院小児外科への小児外科専門医の着任に伴い、超低出生体重児の消化器疾患にする手術が開始されました。

５　今後の目標

今後も入院依頼の収納不能率を 20%未満に抑える目標が継続できるよう、医師の確保・育成に力を注ぎたいと考えています。